

4章

問題

【1】

A.

全訳

子供たちは親の離婚を望まないということを、覚えておくことが大切だ。もっと正確に言えば、親の離婚は、子供たちに強いられるのだ。さらに悪いことに、子供が最も頼り、自分の利益を保護してもらえると期待する、その当人たちによって、それが強いられるということだ。

B.

全訳

言語というものは、人間の連続の習慣に他ならないのであって、その目的は、思考や感情を表現すること、さらに本質的には思考や感情を他人に伝達することである。他の習慣に関するのと同様に、言語という習慣も、完全に首尾一貫しているものであるはずと期待することはできない。どんな人間であれ、他のすべての人間とまったく同じように話すことはできないし、あらゆる状況下において、あらゆる瞬間において、完全に同じように話すこともできない。したがって、至るところで多くの揺れが生ずることになる。言語の主たる目的は同じ共同体の他の構成員に自分の言うことを理解してもらうことであるという事実がなかったら、この揺れによる隔たりがずっと大きなものになるのは確かであろう。このことは、あらゆる重要な点については、ほとんど完全な一致があることを前提としており、また、そのことをもたらしめるのである。ある共同体の社会生活がより密接で、より親密なものであればあるほど、その分だけその構成員同士の言語活動における一致は大きくなるだろう。

C.

全訳

しかしながら、現実的な意味において、人口激減についてのより当面の問題のほうが、遠い将来にそれによって招かれうる結果よりも、我々にとって気にかかることであるに違いない。

D.

解答

(1) 「全訳」の下線部①、③を参照。

(2) good speakers of

全訳

私のところにやって来る日本人は今でも、私が日本文学を教えていることを知っているのに、私の本棚にある日本語の本の数に驚くことが多い。①とは言え、このように日本人が私の本棚にある日本語の本の数に驚くということは、多くの日本人に「カナを読むのですか。漢字も読めるのですか」と真顔でよく尋ねられた20年前に比べれば、今は少なくなった。

しかし、日本語の単語をたった 100 語ぐらいしか操れない外国人が、なんて日本語が上手なんでしょうとお世辞を言われることがあったし、今も依然としてそうである。もちろん、これは礼儀の一形態ではあるが、③外国人には小さな子供が使う語彙以上は習得することができないのだという信念を表してもいるのである。

【2】

ポイント

東大の長文総合問題で使用される英文は、一般的なことだが、キーワード、キーセンテンスを押さえ、段落ごとの内容を追って正確に文章を理解することが大切である。文中の this や that が何を受けているか、言葉がどのように受け継がれて使われているかを確認する設問を中心に出题してみた。

解答

- (1) a cup of coffee
- (2) 自分が（これまで）恵まれていることで罰が当たらないように神々の機嫌をとること。
- (3) my hand stiffened on its way to my pocket
- (4) その物乞いをする人〔老人〕は本当は（第 83 師団の）（元）軍人ではなかったかもしれないが、それが私が侮辱を感じた原因の中心ではないということ。
- (5) その人が困っている人間であること。 (6) c (7) give
- (8) charity (9) 「全訳」の下線部⑨参照。 (10) virtues

解説

- (1) 下線部の語句は、話し言葉の発音を模した綴りで表されている。弱音節の of は特に決まりきった言い回しなどでは [ə] となり、a cup of は a cuppa となる。類似のものとしては「いわば；いくぶん」などの意味の kinda (= kind of), sorta (= sort of) など。別の形だが、wanna (= want to), gonna (= going to) といったものもあるので参考までに挙げておこう。cawfee は [kɔfi] を写したもの。
- (2) this は前方照応、後方照応の 2 通りの使い方をするが、ここは前のものを受けている。つまり、私が物乞いをする人に甘い理由として挙げている “to propitiate the gods for having been so good to me” の部分である。ここを訳しても構わないが、わかりやすい表現でまとめられればよい。今まで恵まれていたのに神々のご機嫌を損ねて無になっては困る（あるいは、今まで恵まれていたために、神々がそろそろ罰を与えようなどと考えては困る）からというわけである。
- (3) 自分は物乞いをする人に甘い、と前に述べてあるのに、空所の後ろを読むと「そっけなく頭を振って通り過ぎた」とある。つまり、結局お金を与えなかったのである。この意味を表すような英文を作ればよい。stiffen は「こわばる」という意味の自動詞。また、on its way to ~ というつながりで「～へ向かう途中で」の意味になる。あとは、my hand, my pocket という語句ができる。以上から文意を推測して英文を構成するとよい。ポケットに手が伸びながら途中で止まってしまったことを表現している。
- (4) この this も前の内容を受けている。point とは「要点；問題の核心」のこと。そのまま訳すと「このことは問題の核心ではなかった」となる。これを具体的に説明せよ、とい

う設問なので、「何が、何に関して重要ではなかったのか」を明らかにして解答とすればよい。this が受けているのは、it seemed highly improbable の部分。さらに、この it は直前の Whether or not he had ever … Division を受けている。つまり、this は「その物乞いをする男が本当に第83師団に属していたかどうか疑わしかったこと」と説明できる。このことが「何に関して重要ではなかったのか」というと、下線部を含む1文の直前の文に He had insulted me. とあるように、自分が侮辱されたと感じたことについて、重要ではなかったということである。

- (5) that は this と異なり、通例前方照応のみの使い方をする。前の段落の内容が理解できていれば、that が受けるものは、直前の“he is a human being in distress”であることはつかめるだろう。人間として困っているということが問題で、援助を受けるに足る事情をとにかく言うことはないというわけだ。また、それが一番人に訴えることになるはずだ、と言っている。distress は、ここでは「苦境；困窮」の意。

Ex. She is in deep *distress* over money. (彼女はお金のことで大変困っている。)

- (6) charity は「困っている人間」に対する純粋なものであるべきだというのが趣旨であるから、charity drive (慈善のための募金運動) は humanity に訴えるべきだ、それが稀なのは残念だと言っている。self-interest は「自分の利益」で、これを動機とする寄付の例は、次の段落の最初に挙げられている。また fear は「不安」で、これも最初に挙げられている例に相当しよう。guilt は「やましい気持ち」、prudence は「思慮分別；用心深さ；賢明さ」を意味する言葉。アメリカ社会では charity は市民的義務のような趣もあり、無関心でいることは利己的な人間と見られることにもなる。

- (7) 前の段落、後ろの段落のキーワードでもある。give はこの場合自動詞で、contribute (寄付する) の意。give to ~ で「～に物を与える；～に寄付する」という意味になる。

- (8) これも前の段落からのキーワード。“loving kindness” (情のある親切) に相当する語を本文から探せば charity となるだろう。ついでながら charity はラテン語の caritas (= love) からきており、キリスト教では「神の慈愛」「人間愛；隣人愛」を意味する。

- (9)

◇ we ought to be grateful for the chance <to make better men and women of ourselves>

- be grateful for ~ 「～に感謝する；～をありがたく思う」ここでは the chance to make … ourselves (が与えられたこと) に対して感謝すべきだ、と言っている。

Ex. I'm most *grateful* to you *for* your advice. (ご忠告にとっても感謝しています。)

- make A of B 「B (=人・物) を A (=ある状態) にする」ここでは 'A' が better men and women, 'B' が ourselves に当たる。

Ex. He wants to *make* a doctor *of* his son. (彼は息子を医者にしたがっている。)

- (10) corrupt されるものであるから、プラスのイメージを持つ語が入るはずである。しかも they begin to look like vices と続き、本文中の語の反意語というヒントもあるので、vices と対になる語を入れればよいとわかる。vice の反意語は virtue である。vices と対になるよう virtues と複数形にして入れることに注意。ここは、美德が悪徳に転じかねないことを言っているところである。

注

- ℓ. 1 ◇ shabby *adj.* 「ぼろを着た；みすぼらしい」
◇ shuffle *vi.* 「足をひきずって歩く」
ℓ. 2 ◇ whine ～ *vt.* 「～を哀れっぽく言う」
ℓ. 7 ◇ curt *adj.* 「そっけない」
ℓ. 12 ◇ recipient *n.* 「受取人」
ℓ. 21 ◇ cripple ～ *vt.* 「～の手足を不自由にする」
ℓ. 24 ◇ scriptural *adj.* 「聖書の」
ℓ. 27 ◇ smug *adj.* 「うぬぼれの強い」
ℓ. 28 ◇ self-righteous *adj.* 「ひとりよがりの」

全訳

今朝オフィスに向かう途中で、みすぼらしい足をひきずった老人が私に近づいて来て、手を差し出し、哀れっぽい声で言った。「第 83 師団の隊員だった者にコーヒー代の 10 セントを恵んで下さいな。」

ところで、私はたまたま物乞いをする人に対しては甘いときている。それは思うに深い寛大な気持ちからきているというより、おそらくはただ単に私によくしてくれている神々の機嫌をとりただけなのだろう。このことが結局は慈善を生み出すもとの多くを占めているのだ。

しかし、ポケットに伸びた私の手は彼の言葉を聞いて途中でこぼばってしまい、私はそっけなく頭を振って通り過ぎた。彼は私を侮辱したのだった。

彼がそもそも第 83 師団の隊員だったことがあるのかどうか私は知らない。とても本当のこととは思えなかったが、このことが問題の核心ではなかった。私の援助を得るために売り込みの口上が必要だと彼が考えたことが問題なのだ。

与えることの美德はただ、それを受ける者がそれを必要としているという明らかな事実のみある、と私には思える。彼が物を与えられるのに値する人物であるとか、退役軍人であるとか、6 人の子供の父親であるとかでなく、彼が困っている人間である、とただそれだけのことなのである。

そのこと以上に強く訴えるものはあり得ない。それに付け加えられたものは何であれ、与えることの本質的な人間性を減ずるにすぎない。極めて押しつけがましいあの慈善募金運動の実に多くが、たとえ寄付している時でも私には腹立たしいのはこのためである。それは私たちの私欲、分別、不安、罪悪感に訴えようとする——が、私たちの基本的な人間性に訴えることはめったにない。

もし私が自分なり家族の者なりがいつか同じ恐ろしい病気に倒れるかもしれないということで医療機関への寄付運動に献金するならば、私は単に一種の保険をかけているにすぎない。もし私が肢体の不自由な子供たちの療養所に、彼らの気の毒な状況が私の涙を誘うからという理由で寄付をすればしたら、私はその状況に対して反応しているのであって、子供に対してではない。私は感傷にふけっているのであり、私たちが「慈善」と拙い訳を与えている「情愛のこもった親切」を表しているのではない。

「受けるよりは与える方が幸いである」という聖書の言葉に何らかの意味があるとするな

らば、その意味は、私たちは与えている時に自分自身に精神的な恩恵をほどこしているということ、また、⑨私たちは自分自身がより善良な男性なり女性なりになる機会に対して感謝すべきであるということなのだ。自分が他人に対してよいことを行っていると強調することで、私たちは自己満足のひとりよがりとなり、美德を悪徳と見えかねないまでに墮落させる危険を犯しているのである。

【3】

解答

- (1) 名前を付ける前に、自分の産んだ赤ちゃんについて知るために数日かけること。
- (2) 「全訳」の下線部②参照。
- (3) b
- (4) whatever
- (5) Hermione などというばかげた名前で届けを出していたら、裁判所まで行ってそれを直さないといけなかった、ということ。
- (6) d
- (7) 友人も家族も全員が、ベンジャミンという名前で一致したこと。
- (8) a ×, b ○, c ○, d ×

解説

- (1) 代名詞 that は、第1段落の先頭の文中の to take a few days to get to know the baby before saddling it with a name を指している。
- (2) 筆者は半ば冗談として、そのように Leslie の赤ちゃんの名前に関する記憶が消えてしまった、と言いたかったのであろう。「他のすべての名前」とは、Hermione 以外の他の名前のこと。
- (3) cave in ~ = yield or submit under pressure (へたばる; 降参する)
cf. The manager caved in to his demands. (課長は彼の要求に負けた。)
- (4) come what may は「何が起ころうとも」という意味の定型表現。この場合の come は「(事件等が) 起こる」の意味。whatever may happen とすれば、同じ意味になる。
- (5) He had a few brain cells intact, enough to remember that they both liked the name Andrea, and so they did not have to go to the courthouse the next week and get things put right. 「彼の方は壊れていない脳細胞がありましたから、2人ともアンドレアという名前が気に入っていることを思い出しました。そこで、彼らは翌週に裁判所まで行き、事態を修正する必要はなくなったのです。」とあるので、この部分をまとめればよい。
- (6) sour については、If a friendship, situation, or attitude sours or if something sours it, it becomes less friendly, enjoyable, or hopeful. と定義されている。
- (7) この非制限用法の which は、前文の内容を受けていることに注意。
- (8)
a 「妊娠してから、ずっと赤ちゃんをベンジャミンと呼んでいた」→本文15～17行目に9ヶ月もの間ずっと使っていた名前は確かにあったようだが、それが突然いやになって

しまったと書かれている。

- b 「たいていの親は赤ちゃんの名前を付けるのに苦労しているようだ」→1～2段落目の内容と一致する。よって正解である。
- c 「結局、レスリーと彼女の夫は自分の赤ちゃんをアンドレアと名付けた」→「直前までは Hermione しか思いつかなかったが、彼女の夫が現れて、Andrea という名前にしようとして話し合っていたことを思い出した」という第3段落の内容と一致する。
- d 「私は赤ちゃんの命名法の本を調べたが、魅力的な名前はその中にはないことを確認しただけだった」→本文24～25行目に「命名法の本を『B』まで読んだところで、Benjamin という名前が絶対にすばらしいと思えてきた」とある。よって×。

全訳

名前を付ける前に、あなたは赤ちゃんを知るために2、3日は欲しいと思うでしょう。しかし、病院ではそれはできません。あなたが出産した直後に、看護師があの子の届け出用紙を持って部屋に入って来て、赤ちゃんの名前を聞いてきます。もし何も思いつかないとしたら、あなたはほんの少しだけ自分がばかみたいに感じます。まるで、あなたが分娩室で赤ちゃんと対面の機会を逸したか何かしたかのように。

「申し訳ありませんが、あまりに多くの出来事が起こったので、赤ちゃんの名前を全く聞き取れませんでした。もしあなたが育児室に行って、赤ちゃんにたずねてくれたら、私はとてもうれしいのですが」と、あなたは言いたいところです。

大変なプレッシャーがかかります、疑いなしに。私の友人レスリーに近づいて赤ちゃんの名前を得ようと、看護師が入ってきたとき、彼女がこの広い世界で聞いたことがあるのを思い出した唯一の名前は、ハーマイオニーだったと言います。②他のすべての名前は、まるでトワイライト・ゾーンのエピソードか何かのように、神秘的なまでに彼女の頭の中のテープから消されていたのです。病院というものは、ある人たちには、そういった影響を与えるものなのです。彼女はお手上げになり、何が起ころうと赤ちゃんをハーマイオニーと名付けようとしていました。しかしその時彼女の夫がたまたま姿を現したのです。ただ彼の方は壊れていない脳細胞がありましたから、2人ともアンドレアという名前が気に入っていたことを思い出しました。そこで、彼らは翌週に裁判所まで行き、事態を修正する必要はなくなったのです。

私が病院にいたとき——最初の子供を産んだときですが——夫も私も赤ちゃんの名前をただの1つも思いつきませんでした。私が妊娠している間に呼んできた名前は、それをみんなに9ヶ月間も言ってきたのに、突然つまらないものに思ってしまったのです。ある日ベッドに上体を起こして、赤ちゃんの名前の付け方に関する本を読んで、何かを選ぶまでは病院のスタッフが私を家に返してくれないだろうと悩んでいると、看護師助手が私のために完璧な名前がありますと言いました。

「それは、私が自分の息子のために選んだ名前です、決して後悔したことはありません」と、彼女は言いました。

私はペンを取って、書き留める準備をしました。

「ソクラテス・ユーフラテス」と、彼女は自信を持って言いました。

私は再び、赤ちゃんの命名の本を手に取りました。「B」まで来たところで、私は突然ベ

ンジャミンという名前が、絶対にすばらしいと思えてきました。それは世界中で最も美しい名前であるし、なぜ今までこれに気がつかなかったのだろうか。

「ベンジャミンよ！」私は赤ちゃんの父親に言いました。「彼をベンジャミンと呼びましょう！」と。

私の友人と家族の全員が、これはすばらしい決定だということで一致しましたが、それは本当に珍しいことでした。それはすべてを備えた名前でした——品のよさ、重厚さ、それに恥ずかしくない愛称さえも。

3週間たってから、ラマーズ法の同窓会で、私は6人の男の子が生まれたことを知りました。彼らは全員がベンジャミンと命名されていました。そして、4人の女の子はジェニファーという名前でした。

注

- ℓ. 1 ◇ saddle *vt.* (usually be saddled with) burden (someone) with an onerous responsibility or task ((困難な) 仕事 [責任] を負わせる)
- ℓ. 3 ◇ form *n.* = a printed document with blank spaces for information to be inserted (書式; 申込用紙)
cf. an application form (申込用紙)
- ℓ. 5 ◇ go on = happen; take place
- ℓ. 7 ◇ accost *vt.* = approach and address (someone) boldly or aggressively (近寄って声をかける)
- ℓ. 14 ◇ courthouse *n.* = a building in which a judicial court is held (裁判所)
- ℓ. 17 ◇ sour *vi.* = make or become unpleasant, acrimonious, or difficult (~をまずくする)
- ℓ. 24 ◇ as far as ~ = for a great enough distance to reach 「~まで」
cf. I decided to walk as far as the village. (私はその村まで歩こうと決めた。)
- ℓ. 28 ◇ rarity *n.* = a thing that is rare, especially one having particular value as a result of this (まれな物 [事; 人])
cf. To take the morning off was a rarity.
- ℓ. 29 ◇ heft *n.* = (figurative) ability or influence (重要性; 影響力)
◇ decent *adj.* = of an acceptable standard; satisfactory (まともな; きちんとした)
cf. People need decent homes.
- ℓ. 30 ◇ Lamaze *adj. n.* 「ラマーズ法」
◇ reunion *n.* = a social gathering attended by members of a certain group of people who have not seen each other for some time (同窓会)

【4】

A.

解答・解説

- (1) Satoru is a typical Japanese except that he can speak English fluently.
○ typical 「典型的な」
○ except that S V 「SがVという点を除けば」

- fluently 「流暢に」
- (2) Man is distinguished from the beasts in that he can act according to his reason.
 - distinguish A from B = tell A from B 「AをBと区別する」
 - in that S V 「SがVという点で」
 - according to ~ 「①~によると ②~にしたがって」
 - reason 「理性」
- (3) When it comes to convenience, there is no better modern invention than the Internet.
 - when it comes to ~ 「~ということになると」
 - convenience (利便性) は抽象名詞のため冠詞は不要
- (4) As food is to animals, so sunshine is to plants.
 - As S' V', so S V. 「S'がV'であるように, SはVだ。」
 - S Vは倒置形になることも多い。
 - A is to B what C is to D. 「AとBとの関係はCとDとの関係と同じである。」という表現の変形の1つ。= Sunshine is to plants what food is to animals.
- (5) Would you please bring it nearer (so) that I may see it better?
 - so that S may [can, will] ~ 「Sが~するために; ~するように」
 - この構文では so か that のどちらか1語が省略された形も多く, that S may ~とか so S can ~なども見られる。

B.

解答・解説

- (1) She had no sooner played the lead in the musical than she became a popular actor everybody knew [known to everyone] . (= As soon as she played the lead in the musical, she became a popular actor everybody knew [known to everyone] .)
- (2) She had not been playing the lead in the musical long before she became a popular actor everybody knew [known to everyone] .
cf. 「待つほどもなく彼女が来た。」 I had not waited long before she came.
- (3) She did not become a popular actor everybody knew [known to everyone] until she played the lead in the musical. (= It was not until she played the lead in the musical that she became a popular actor everybody knew [known to everyone] .)
- (4) She never played the lead in a musical without the musical [it] becoming very popular.
 - never [cannot] ~ without ...ing 「~すると必ず…」
 - Ex.* I cannot look at this picture without thinking of my childhood.
 (この写真を見ると必ず子供時代を思い出す。)

[5]

解答・解説

- (1) Little did I know what was going on in the heart of my sister.

「妹〔姉〕が心の中で何を考えていたのか私は全くわからなかった。」

否定の副詞が文頭に出るとその後は倒置形になる。little が think, suppose, dream, imagine, realize, understand などの前に置かれると「まったく～ない (= never)」の意味になる。

(2) (and) so can you

「私が試験に受かったんだから君にもできる。」

○肯定文, so V S 「S もまた V である」

A : I like this food. 「この食べ物好き。」

B : So do I. 「私も好き。」

(3) not

「彼が来月また来てくれると思いますか。私はたぶん来ないと思うのです。」

so, not を be afraid, hope などの動詞の目的語となる that 節の代わりに用いる場合がある。so は肯定の that 節, not は否定の that 節の代わりとなる。

(4) Emily did try to change her father's mind.

「エミリーは本当に父の気持ちを変えようとしていた。」

動詞を強調する場合, 強意の助動詞 do を用いる (いわゆる It is ~ that …の強調構文は使えない)。過去形の場合には did, 3人称が主語の現在形の場合には does となる。

Ex. He does like ice cream. (彼は本当にアイスが好きだ。)

(5) It was because the teacher spoke in a very friendly manner that we felt really relaxed.

「私たちが本当にリラックスできたのは, 先生が大変親しく話してくれたからだった。」

It is ~ that …の強調構文では, 主語・目的語・補語などの名詞・代名詞や副詞 (句・節) が強調される。本問のように副詞節が強調される場合もある。

(6) Not until he came back home did he find he had left his mobile phone at the café.(= It was not until he came back home that he found he had left his smart phone at the café.)

「自宅に戻って初めて, スマートフォンをカフェに置き忘れていたことに気が付いた。」

Not until S V という否定の副詞節が文頭に出たために倒置形になることに注意。

(7) As much as I hate to admit it

「認めるのは嫌だが, 時には望んでいなくても他人の必要性を満たさねばならないこともあるのだ。」

As X as S V, = Though S V X, となる表現がある。Xには名詞 (無冠詞)・形容詞・副詞が入り, As は省略されることが多い。

Ex. Rich as he is, he is not happy. = Though he is rich, he is not happy.

(8) No matter how hard you may try, (= However hard you may try.)

「どんなに頑張ってもそのレースに勝つことはできないだろう。」

‘動詞 + as S V’の形で‘譲歩’を表す表現。一般に -ever で書き換えられる。

【6】

A.

解答・解説

(1) d 「健康の価値は失って初めて分かる。」

= You do not realize the value of your health until you lose it.

= Not until you lose your health do you realize its value.

いわゆる It is ~ that …の強調構文である。

○ It is not until A that B 「Aになって初めてB」

(2) c 「しかし、列車が川を通過するや否や、橋は水面へと落ちて行った。」

○ scarcely [hardly] ~ when [before] … 「~するかしないかのうちに…」

= As soon as the train passed the river, the bridge fell into the water.

(3) a 「日本が今のような姿であることには十分すぎる理由があるが、その主な理由は、日本が他の姿にはなれないということだ。」

otherwise は形容詞で「別の」の意味となり、カッコの後が完全文となるため what は入らない。why では逆の意味となり文意が通らない。

(4) c 「その教授は、大阪に飛行機で行くのか電車で行くのかに関して何も言わなかった。」

接続詞 whether が、前置詞 as to の目的語となる名詞節を作る。as to which を「前置詞＋関係詞」と見ることができそうでもあるが、それでは文意が通らない。

(5) b 「エイズの治療法を誰が見つめるかはほとんど重要ではない。それが見つかりさえすれば。」

as [so] far as S V も as [so] long as S V も「SがVする限り」と訳せるが、前者は「S Vを前提とした範囲」を表すのに対して、後者は「もしSがVならという条件」を表す。

a では「治療法が発見される範囲内で」となりおかしい。unless S V は「SがVでない限り」という意味であるから本文では不適。suppose (that) S V = supposing (that) S V は「もしSがVなら」と仮定を表せるが、supposed that という形はない。

(6) d 「昨晚私は姉と話をしなかったが、母もまたそうだった。」

否定文, nor V S. (SもまたVではない) を用いれば, ~, nor did my mother. となるべきなので, b では語順が合わない。また, 「~も」は肯定文では 'too' を用いるが, 否定文では 'either' となる。この際に, 最近ではカンマを省略することもある。

B.

解答・解説

(1) unless / serves

「私の記憶が正しければ、ジョンソンさんは7時ぴったりに出社します。」

at seven o'clock sharp 「7時きっかりに」

○ if my memory serves me (right) = unless my memory fails me = if I remember correctly 「私の記憶が正しければ」

(2) during / while [when]

「ロサンゼルス滞在中に私たちはムーア夫人と知り合いになった。」

一般に「~している間」は, 'while SV = during 名詞' となるが, during doing の形

にはならず, while doing の形になる。この while doing は (接続詞を明示した) 分詞構文とも考えられる。

【7】

解答・解説

本問ではいずれも (X) が前置詞, (Y) では副詞として用いられていることに注意。

(1) in

(X) 「下駄を履いて歩いているあの背の高い青年を見てください。」

(Y) 「遅れて着いたが, まだ列車はホームに入ってきていなかった。」

(2) up

(X) 「左に曲がって階段を上がってください。そうすると私のオフィスが見つかるでしょう。」

(Y) 「私たちは待ちました。そして彼女はようやく現れました。」

○ show up = appear

(3) off

(X) 「今度ばかりは見逃してあげましょう。」

○ off the hook 「危機から脱して, 責任から免れて」

(Y) 「その会社に5年勤めた後トムは解雇された。」

○ lay off ~ 「~を (一時) 解雇する」

(4) to

(X) 「私の知る限り, 彼は信頼できる人です。」

○ to the best of *one's* knowledge = as far as *one* knows 「~の知る限り」

(Y) 「トーマスは突然気を失ったが, すぐに意識を取り戻した。」

○ faint 「失神する」

○ come to 「正気に戻る」

5章

問題

【1】

A.

全訳

私は3ヶ月ほど前に時計を買った。その時まで私は、デジタルであれ他の物であれ、時計にはあまり注意を払っていなかった。そして私は、お金を払えば払うほどよい時計が手に入ると思い込んでいた。というのは、生活における大部分のものがそうだからである。しかし、今ではもはやそのようなことはない。

B.

解答

- (1) 「全訳」の下線部①～③参照。
(2) c

全訳

すべての子供は困難な問題を抱えている。親は完璧ではないし、①学校はどんなに子供中心であっても公共機関なので、すべての児童にとって常に理想的というわけにはいかない。大部分の子供は、時間と両親の愛情、そして理解力と常識的判断力と学習意欲に恵まれば、自分の問題をなんとか処理する。②困難がひとりでに消滅するというわけではない。正当に配慮すれば大部分の問題は処理できるということである。そして、親も児童も同様に、問題に直面した時期をふりかえて、何であんなに大騒ぎしたのかしらと思うだろう。他の問題に単に取って代わられるだけの問題もあるだろう。すなわち、時がたつにつれて、その重大さが減じていくのである。③親が子供たちについて心配することで、子供が18才になってもまだ心配し続けていることはほとんどない。

C.

解答

- (1) ① as ② to ③ with ④ into
(2) c
(3) 「全訳」の下線部①～③参照。

全訳

①色というものがまったくなかったら、あるいはすべての物が同じ色で濃淡が違うだけであるとするば、この世の中はいかに退屈なものになるであろうか。心理学の専門家は、色は我々の心理的態度に影響を及ぼすと言う。つまり、気持ちを高ぶらせたり、落ち着かせたりすることができるのである。今日においては、②美しい色の組み合わせに興味を持っているのは、芸術家やファッション業界の人たちだけではない。ビジネスマンも、色が仕事の助けとなりうると考えている。色鮮やかなオフィスは、より多くの顧客を魅了する。現在カラービジネスとして知られる、新しいタイプのビジネスがある。これらの新しいスタジオでは、

色の専門家が女性には肌の色に合うような服の選び方を、また男性の政治家には有権者を最もひきつける色の服について助言する。③コンビニや、リゾート・ホテル、観光バスの所有者は、自分たちの建物や乗り物をどうやってより魅力的にするか、アドバイスを求めてやって来る。新しい商業地域では、各店の色だけではなく周りの建物と調和しているかどうかとも考慮しなければならない。

【2】

解答

- (1) 「全訳」の下線部A, B参照。
- (2) 言語は、翻訳されればどんな言語でも内容をかなりまで理解することが可能だが、音楽をある文化から別の文化の音楽に移し替えることは、そうする意味も理由もないから。(78字)
- (3) ① f ② i ③ a ④ h ⑤ b

解説

- (1) A
 - universality 「普遍性」
 - that は the universality を指す。
「音楽」と「言語」の普遍性が比較されている。
 - place emphasis on = emphasize
 - with O C : 付帯状況を表す。
 - declare O (to be) C 「OをCだと断言する」
 - unmusical 「音楽的素養のない」
- B
 - ◇ society claims that only a limited number of people are musical.
 - and yet
 - it behaves as if all possessed the basic capacity
 - (= society)
 - without which no musical tradition can exist
 - the capacity to listen and distinguish patterns of sound

- musical = interested in or good at music ⇔ unmusical
- as if ~ 「~のように」
- (2) 音楽と言語が対照的であると説明している箇所を指定語数にまとめる。言語については第7段落、音楽については第8段落を参照。
- (3) ①空所のあとの to 以下は目的を表す不定詞。空所部分がなくても文が成り立つことから、空所には副詞が入ると予測できる。空所補充では前後の文脈から適切な意味の語を選ぶ

のはもちろんだが、入りうる品詞も選択の手がかりとなる。

② not only と呼応して but が入る。not only A but (also) B で「A だけでなく B も」の意。
A = to make music, B = to make it in a particular way. A と B はどちらも動詞
decided につながる不定詞。despite ~ the world は挿入句。

③カンマ以降の部分に接続詞、動詞がないことから分詞構文にする。

= , though this is a small fraction ~

④空所の前は make O C の形。

O = identifying the boundaries between languages and musics

C = difficult

in a historical sense と in the contemporary world という対比する語句が or で結ばれており、それぞれカッコ内に具体例が挙げられている。語群の中で or と呼応するのは either か whether である。文脈から whether A or B (A であろうと B であろうと) が適切。

⑤ little や few のあとで「わずかである」ことを強調する if any。「たとえあるにしても (ごくわずか)」の意。

全訳

音楽と言語はどちらも、現代の人間社会すべておよび歴史的に記されてきた人間社会すべてに存在することが知られている。考古学者たちは、音楽と言語の両方がすべての有史以前のホモサピエンス社会に存在していたと確信している。音楽の概念はさまざまかもしれないが、すべての文化に歌と踊りがあり、その音楽的表現にはある種の内在的な反復とバリエーションがある。それらは音の長さや強弱法の強勢の区別に基づいたリズム構成を用いているのだ。

音楽が用いられる状況と音楽が社会で果たすと思われる機能も極めて変化しやすく、娯楽や社会的きずなの育成といった面では特に広く行き渡っている。しかし、最も重要でかつおそらく唯一の普遍的状況は宗教に関するものである。どの特定の文化内でも認められる神々と意思疎通したり、神々をたたえたり、あるいは仕えたりするために、音楽はあらゆる場所で使われている。

普遍性のもう一つの形は、社会や文化のレベルというよりは個人のレベルで見受けられるものである。認知障害を患う人以外は、誰もが言語を獲得する能力を持ち、生まれつき音楽を鑑賞する能力を備えている。ブルーノ・ネトルは世界的な状況を次のように要約している。「明らかに人類は音楽をただ作るのではなく、世界中の音楽には多数のバリエーションがあるにもかかわらず、特定のやり方で音楽を作ることにしたのだ。」

①音楽の普遍性は、おそらく言語の普遍性よりも議論の余地があるだろう。なぜなら、多くの個々人が自分は音楽的素養がないと断言するので、我々は聴くことよりも作り出すことを重要視するためである。この点では、ジョン・ブラッキングが1970年代に述べた、自分自身も育った西洋社会の中産階級（聖公会の高教会派、パブリックスクール、ケインブリッジ大学）における理論と実践の矛盾に関する論評は、今日でも重要な意味を持っている。音楽は昔も今も私たちの周りのあらゆるところにある。レストランや空港のラウンジで食べたり話そうとしたりすると、音楽が耳に入る。ラジオでは一日中音楽がかかっている。実際、

静かになりそうな瞬間を誰かが音楽で埋めようとしなければほとんどない。ブラッキングは次のように述べた。③「社会は、限られた数の人々だけに音楽的素養があると主張するにもかかわらず、それなしではどのような音楽的伝統も存在し得ないような基本的な能力——音を聴き、音のパターンを聴き分けるという能力——は誰もが持っているようにふるまっている。」ブラッキングは音楽的素養のない人間などというものはないという考えを支持し、バッハやベートーベンといった存在は耳の肥えた聴衆の存在があってこそ可能だったのだと指摘した。

言語と音楽は、どちらもあらゆる社会に見られ、共通の特徴をいくつか持っている一方で、それらの研究の歴史はその多様性を記録したり説明したりする試みが多数を占めてきた。今日、世界では6,000以上の言語が話されており、これはこれまで話された言語の総数のほんの一部でしかない。世界の音楽の数はさらに多く、かなり大きな多様性を見せると思われる。

英語、中国語、アラビア語があるように、ジャズ、ブラックフット族の音楽、チベットの詠唱歌がある。言語同様、音楽にも様式的、地理的、社会学的な境界がある。それらは族に分類することができ、系統、混成、発展のパターンをたどることができる。言語と音楽両方におけるそのような多様性とパターン形成は、ある世代から次の世代、ある社会から別の社会への文化の伝承の過程から生じる。このことが、歴史的な意味にしる（古英語はいつ中英語になったのか、古典音楽はいつロマン派音楽になったのか）、現代の世界にしる（たとえばフォーク、ブルース、ゴスペル、カントリー、ジャズの境界はどこにあるのか）、言語と音楽の境界の見極めを難しくしている。

ある文化形式から別の文化形式へ移し替えられる程度については、音楽と言語では対照的である。もし、自分になじみのない言語を誰かが話すのを聞いたなら、話している内容を、たとえわかったとしてもほんのわずかしかわかりはしないだろう。特にその言語が、自分の言語とは完全に異なる語族——日本語や、アフリカのいわゆる「舌打ち音」の言語の一つなど——である場合はなおさらである。顔の表情や語調、しぐさから雰囲気はいくらつかめるかもしれないが、内容はほとんどわからないだろう。けれども、もし通訳がその場にいれば、耳にする謎めいた発話も自分が理解できる英語に変えてもらうことができる。

音楽の場合はかなり異なる。翻訳の過程でももとの言語の微妙なところは多くが失われるかもしれないということがわかっているとはいえ、日本語は英語だけでなく、世界で話される他のどんな言語にも翻訳することができる。それに対して、ある文化で使われている音楽を別の文化の音楽へ変換しようとするのはまったく意味がなく、そうする理由もない。1973年にジョン・ブラッキングが指摘したように、このことは言語行動には普遍的理論が存在する可能性がある一方で、音楽にはそのような可能性がないことを示唆すると思われる。

注

- ℓ. 2 ◇ those は human societies を指す。
- ℓ. 5 ◇ repetition < repeat
- ◇ variation < vary

ℓ. 7 ◇ The contexts and the function are also highly variable
↑ in which music is used ↑ it appears to play in societies

ℓ. 13 ◇ with the exception of = except

◇ cognitive deficit 「認知障害」

ℓ. 14 ◇ inherent = that is a basic or permanent part of somebody or something and that cannot be removed (本来備わっている；生まれつき存在する)

ℓ. 20 ◇ in this regard = on this point

ℓ. 21 ◇ contradiction (between A and B) = a statement, fact or action that is opposite to or different from another one (矛盾)

ℓ. 24 ◇ there are few occasions

↑ when someone is not trying to fill moments of potential silence with music

「…しない場合はほとんどない」 → 「ほとんどの場合…する」

【3】

A.

解答

- (1) T (2) T (3) T (4) F (5) F
(6) F (7) F (8) T (9) T (10) F

全訳

幽霊船メアリー・セレスト号

おそらく最も有名な海の謎は、幽霊船 Mary Celeste 号のものだろう。この船は 1872 年 12 月 3 日にポルトガル沖に浮かんでいるのを発見された。乗組員がいなくなった理由を説明する形跡は一切なかった。何もかも、ごく正常なように見えた。乗組員の衣類は、ベッドの上にきちんとたたまれて置かれており、洗濯物は乾かすためにかけていた。朝食は整えられていた。船長は 11 月 25 日まで日誌に書き入れていたが、そこには何かがおかしくなったことを示唆するものはみられなかった。

なぜ Mary Celeste 号は放棄されたのだろうか。悪天候が原因だとは思われなかった。デッキには大して損傷がなく、船の船倉には通常の量の水しかなかった。乗組員が船長に対して暴動を起こしたのか？戦いの形跡もなかった。答えはともかく、最後の疑問が残っている。操縦する者が誰もいないのに、どのようにして Mary Celeste は 10 日間、800 キロも航路に従って航海できたのだろうか。この船は呪われているのだという話が出てきた。船は回収され、再び海に出されたが、不幸な過程をたどった。

B.

解答

I. The ship was unlucky from her first voyage/journey/trip.

- Her first captain got sick and died on the night before her first voyage.
- The next captain ran her into a fishing boat on the same voyage.
- Then a fire broke out.

- The second captain was fired.
 - In England the Amazon crashed into another ship, which sank.
 - The third captain was fired.
 - The Amazon had yet another big accident in Nova Scotia.
 - The ship ended up with a New York owner, who renamed her the Mary Celeste.
- II. The Mary Celeste set sail from New York on November 7, 1872 under Captain Briggs.
- The captain's wife and two-year-old daughter were with him.
 - The ship carried 1,700 barrels of industrial alcohol.
- III. The Mary Celeste was discovered abandoned 400 miles west of Portugal.
- There was no sign of life.
 - Some of the sails seemed to have been damaged by a storm, but others were in good condition.
 - The compass lay smashed on the deck.
 - Breakfast had been prepared.
 - The crew had fled the safety of their ship in the small lifeboat for some unknown/mysterious reason.
- IV. Had the Mary Celeste been abandoned in a storm?
- There was little storm damage aboard.
 - Cups and china were unbroken/not broken.
 - A bottle of medicine stood uncorked and unspilled on a table.
- V. Had there been a mutiny? Had the crew gotten drunk and violent?
- Nine of the barrels of alcohol on the ship were empty.
 - The cargo was industrial alcohol, which would have made the crew sick or even blind before they could drink enough to become drunk.
 - The crew had abandoned ship along with the captain.
 - There was no sign of a fight/struggle.
- VI. The Mary Celeste became known as a bad-luck /cursed ship.
- Over the next eleven years, the Mary Celeste changed owners seventeen times.
 - None of her new owners kept her long.
 - She lost crew in other fires and crashes.
 - In 1884 her final owners deliberately crashed her into a coral reef in Haiti for the insurance money.

CD 4

The Mary Celeste, originally named the Amazon, first sailed from Nova Scotia in 1861. There was trouble immediately. Her first captain got sick and died on the night before her first voyage. The next captain ran her into a fishing boat on the same voyage and had to return to port for repairs. In dock, a fire broke out. The second captain was fired. The ship crossed to England, where she crashed into another ship, which sank. The third captain was fired and the ship repaired. The Amazon returned to Nova Scotia, where she had yet another big accident. This time the owners gave up. The ship was sold several times and ended up with a New York owner, who renamed her the Mary Celeste.

The Mary Celeste left New York for Italy on November 7, 1872 under Captain Briggs. The captain's wife and two-year-old daughter were with him. The ship carried 1,700 barrels of industrial alcohol.

On December 5 another ship found the Mary Celeste 400 miles west of Portugal. Three men rowed across to search the mystery ship for any sign of life. There was none. Some of the sails seemed to have been damaged by a storm, but others were in good condition. The compass lay smashed on the deck. Below decks, the scene was even stranger. In the galley, breakfast had been prepared. The crew had launched the small lifeboat and escaped from their ship. But why?

Had the Mary Celeste been abandoned in a storm? If so, why was there so little storm damage aboard? Cups and china were unbroken. A bottle of medicine stood uncorked and unspilled on a table.

Had there been a mutiny? If so, why would the rebels abandon ship along with the captain? Had the crew gotten drunk and violent? Nine of the barrels of alcohol on the ship were empty. But the cargo was *industrial* alcohol. It would have made the crew sick or even blind before they could drink enough to become drunk. In any case there was no sign

25 of a fight.

Over the next eleven years, the Mary Celeste had seventeen new owners. She was considered a bad-luck ship, and none of her new owners kept her long. She sailed up and down the coast of America, losing more crew members, crashing into other ships and catching fire many times. In 1884 her final owners deliberately ran her onto a coral reef in
30 Haiti to get insurance money. The Mary Celeste was left to rot away on the reef.

[423 words]

全訳

Mary Celeste 号はそもそもアマゾン号という名前だったが、1861年、Nova Scotia から最初の航海に出た。たちまちにして問題が起こった。最初の船長が病気になり、処女航海の前の晩に亡くなった。次の船長は、最初の航海でこの船を漁船に衝突させたために、修理のために港に戻らなければならなくなった。ドックでは、火災が発生した。この2番目の船長は解雇された。船はイギリスへ渡り、そこでは別の船に衝突して沈没させた。3番目の船長が解雇され、船は修繕された。Amazon 号は Nova Scotia に戻ったがそこでもまたさらに別の大事故にあった。今度ばかりは船主もあきらめた。船は数回売られ、あるニューヨークに船主のところに落ち着き、この人が船の名前を Mary Celeste 号と付け直した。

Mary Celeste 号は Briggs 船長のもと、1872年11月7日にイタリアに向けてニューヨークを出発した。船長の妻と2歳の娘も同行していた。船は、工業用アルコール1,700樽を運搬していた。

12月5日、別の船がポルトガルの400マイル西に Mary Celeste を発見した。生存者がいる跡が何かありそうかどうか、この謎の船を探索するため、3人の男が小船を漕いで渡っていった。そのような跡はまったくなかった。帆のいくつかは嵐で損傷を受けたようだったが、そのほかの帆の状態はよかった。コンパスは粉々に壊されてデッキの上にあった。デッキの下の様子は、さらに不思議だった。厨房では、朝食が準備されていた。乗組員は小型の救命ボートを出し、船から逃げた。しかしなぜだろうか。

Mary Celeste 号は嵐のなかで放棄されたのだろうか。そうならばなぜ船上には嵐による損傷がほとんどないのだろうか。カップや瀬戸物はこわれていなかった。コルクが抜かれず、テーブルの上にこぼれることもなく立っていた1本の薬ビンもあった。

反乱があったのだろうか。そうだとしたら、反逆者たちは船長ともども船まで捨ててしまうものだろうか。乗組員が酔って暴れたのだろうか。船上のアルコールのうち、9樽は空だった。しかしこの積荷は、工業用のアルコールだったのだ。乗組員を気持ち悪くさせただろうし、酔っ払うほど飲める前に失明さえさせてしまったはずだ。いずれにしても、けんかの跡はなかった。

その後11年にわたり、Mary Celeste 号には17人の新たな船主がついた。この船は運の悪い船だと考えられ、新しい船主の誰も、これを長く所有することはなかった。船はアメリ

カ沖を行き来し、さらに乗組員を失い、他の船に衝突し、何回も出火した。1884年、最後の船主は保険金をもらうために、この船をハイチのさんご礁に故意に衝突させた。Mary Celeste号はさんご礁上で朽ち果てるまま放置された。

【4】

解答・解説

(1) d

「自由はとても根本的なものなので、私たちはその重要性をどんなに強調してもしすぎることはないだろう。」

cannot ~ too … という構文は有名だが、too の代わりに enough を用いたり、cannot の後ろに overestimate, overstate, overpraise などの動詞を用いて、「いくら～しても…しすぎることはない」という意味を表すことがある。

cf. You cannot overestimate the importance of world peace.

(世界平和の重要性をどんなに過大評価してもしすぎることはない。)

(2) b

「誰にも無心をする必要もなければお世辞を言う必要もない者は、誠に幸せ者である。」

who の先行詞は He である。「借りることやお世辞を必要としない人は満足するのは当然だ」が直訳になる。

○ may well … 「…するのも当然だ、もっともだ」

(3) d

「もし定刻に着きたかったのであれば、8時30分ののぞみ号に乗るべきであったのに。」

選択肢に would, could, might がない以上、仮定法ではない (should が仮定法の帰結で用いるのは主語が1人称の場合が普通)。そのため if 節は直説法であり、「そのとき定刻に着きたいと思っていたなら」という意味になる。そのため‘過去の実現しなかった動作’を表す‘助動詞 + have + 過去分詞’の形にすればよい。

○ may have done 「(あのとき) …だったかもしれない」

○ must have done 「(あのとき) …だったに違いない」

○ cannot have done 「(あのとき) ~だったはずがない」

○ should have done 「(あのとき) ~すべきだったのに、(あのとき) ~してしまったはずだ」 (= ought to have done)

○ need not have done 「(あのとき) ~する必要はなかったのに」

(4) c

「君が昨日ジョンが好きだと言った時、真剣であったはずがない。当初から彼が君をどんなふうにあつかっていたか知っているんだ。」

本問も、過去 (yesterday) についての現在の判断 (次に I know とある) であるから、‘助動詞 + have + 過去分詞’の形式になる。しかし、must have been では意味が通らない。

(5) c

「私の父は (普段は1本しか食べない) 2本のバナナを食べたわずか数時間後に心臓発作になった。心臓発作のきっかけになったのはカリウムの高摂取だったに違いない。」

It is ~ that …の強調構文。be 動詞が must have been になったと考える。

【5】

A.

解答・解説

(1) b

「もし一生懸命勉強していなかったら、その数学の試験はそんなに易しくなかっただろう。」
過去の事実を仮想して述べる形式を仮定法過去完了と呼ぶ。条件節は if S had *done* の形となり、帰結節は S would [could ; might ; should] have *done* の形にする。

(2) d

「もしそれがあなたの持っている唯一の辞書であると知っていたなら、その辞書を持っていくことはなかったのに。」

(1) と同じく仮定法過去完了の文。

(3) b

ルーク「心臓の検査をしに先日病院に行ったよ。」
アリス「結果はどうだったの？」
ルーク「医者、私の血圧が若干高いと言ったけれど、彼は全然心配していないよ。」
アリス「おそらく彼は心配していないのですが、もしそれが私なら、心配になるわ。」
but に続いて「もし私なら」という仮定法の条件が書かれていることから but if it were I, I would be concerned. という文章になると考える。

(4) d

ジェームズ「今日の午後、一緒に科学博物館に行かない。」
ジョン「行ければ行きたいんだけど、無理かな。」
選択肢の省略を補って考えればよい。これに文意を含めて考えると、I would go there with you if I could go. の省略と考えられる d が正解。b では「行こうと思えば行けるんだけど」となるので違和感がある。a の仮定法過去完了はおかしいし、c では it が何を指すのかが不明。

(5) c

「会計士は、予算は次の会計年度まで変更しない方がよいと忠告した。」
advise はいわゆる‘提案・勧告・要求’の動詞の1つであり、後の that 節内は仮定法現在（動詞の原型）か should *do* の形になる。したがって、that the budget (should) not be changed とすべきである。

B.

解答・解説

(1) were が不要

「石油に代わる燃料が見つからなければいったいどうなるだろうかと考えたことはありませんか。」

if S were to *do* の形ではないことに注意。

(2) They が不要

解答例

- (1) Vietnam is the world's second largest exporter of rice.
- (2) Today it's warm like〔as warm as〕 spring despite it being February.
- (3) The prison has no less than 1000 inmates, out of whom only forty are women.
- (4) A friend suggested to me that I (should) add one of her friends to my list, but the trouble is that I cannot find him when I put his name in search.
- (5) Never before in history has a statesman run for president with the idea that economic reforms should come first before any other political problem.
- (6) I can no more believe that my favorite actor married the infamous〔disreputable ; notorious〕 actress than I could force myself to believe that $1+1=3$.